

都心にふさわしい図書館を考える懇談会 第3回会議

議事録（概要版）

日時：平成24年10月23日（火）午前10時開会
場所：札幌市中央図書館 3階 会議室

1. 開会

●事務局（調整担当課長）

今回は、これまでの考え方を整理するとともに、更に深める部分や新しいアイデアをお出しいただき、懇談会のまとめとして頂きたい。

2. 議事

●河村座長

事務局作成の資料に沿って議論を進めるが、今回、細谷委員から「都心にふさわしい図書館配置（案）」が提出されているので、基本方針をおさえた上で、具体的な面を取り込んで行きたい。

今回が最終回となるが、当懇談会での検討結果が、図書館協議会に報告され、その後、計画等が実施される時にはさらに細かい内容を検討することになる。そこで今回は、第1回目、第2回目、そして今日話し合われる内容を含め、基本コンセプトを固めたい。

---前提となる考え方・コンセプトについて---

（この段階での）修正等意見なし

---札幌の魅力発信について---

●細谷委員

アートセンターとの連携・連動については、図書館の予算やスペースに限りがあるため、アートセンターがどの程度の機能を備えるか見極めてから決めたい。

●菊地委員

要するに、アートセンターと図書館は同じ建物、同じフロア内にあるため、全く分離しているということではなく、連携出来る仕組みが必要という考え方。

●細谷委員

都心にふさわしい図書館では、完璧に資料を揃えることは難しいため、どの情報がどこにあるか、専門図書館や関係機関を紹介するレフェラルサービスが重要になる。レフェラルサービスにはアートセンターも含み、近代美術館等の情報も把握し、サービスを展開していくと良いと考える。

●豊田委員

札幌の魅力発信の考え方について、「来訪者が札幌の魅力を一望できる」とあるが、都心にふさわしい図書館で全てを担うのではなく、札幌の魅力を知りたいという人たちをナビゲートする、「ファーストコンタクト、最初の窓口になる」というイメージの方が良い。

---課題解決の場について---

●細谷委員

貸出についてはまだ結論が出ていない。目の前の資料が借りられないということには抵抗がある。この辺りは後ほどもう少し議論したい。

レファレンスについて、大まかな部分は同意するが、「必ずしも高度な能力を必要としない」と記載すべきではない。「これはしない」という言い方よりも「これに力を入れる」という視点で「多様な機関との連携」「レフェラルサービスに重点」という表現にした方が良いのではないか。

コンシェルジュという表現については、言葉が一人歩きする恐れがある。

●豊田委員

コンシェルジュというホテル業界の言葉を使わず、「イベントなどの情報を把握しているライブラリアン」という表現が良いと思う。

課題解決の場の蔵書について、メインとなる資料を「速報性の高い雑誌・新聞」としているが、課題解決を謳うのであれば「参考資料」も加えたい。

レファレンスツール・設備のデータベースは、業界紙等と連動したデータベースを充実させるという意味。

●細谷委員

蔵書のメインを速報性の高い雑誌とすることで、滞在型利用から立ち寄り型へ変化するとあるが、貸出をしないということになれば、資料を吟味し、必要な部分を複写するなど、むしろ滞在時間が長くなるとも考えられる。

●河村座長

「滞在型利用に加え、立ち寄り型利用も見込む」という表現にしてはどうか。また、一部サービスの有料化についての議論は、実際の計画の時期に先送りしたい。

他に、ミーティング・プレゼンテーションルームについての意見は。

●豊田委員

キャレル席のイメージとしては、個別のブースを整然と並べて用意するのではなく、会話にもミーティングにも使用できるフレキシブルなイメージとしたい。

●細谷委員

プレゼンテーションルームについて、資料では「仮に設置する場合」となっているが、後の議論では、セミナーの開催、グループミーティング、カフェスペース等として、フレキシビリティを持たせた形で配置が必要となった。

---都心の知的空間について---

●河村座長

開館時間については、概念的に朝早くから夜遅くまでということで、具体の時間については言及しない。

ここからは、蔵書の貸出及び蔵書構成について、議論を深めたい。

●細谷委員

先に「都心にふさわしい図書館配置（案）」（細谷委員作成）について、説明し、具体的な議論に入りたい。（資料参照）

- ・ 1階には場所柄、多文化（外国語）サービスが必要。機能の配置面では、展示・セミナースペースがカフェと隣接しているイメージ。
- ・ 2階は、行政情報サービスとして、パブリックコメント情報等の提供が必要。
- ・ 図書資料としては、乱暴かもしれないが、3～6類あたりを重点に収集。

●河村座長

蔵書構成を3～6類という意見について、（分類としては賛成だが）どこまでの資料を揃えるのかという課題がある。これについては、新刊を随時更新していくという考え方もある。

●菊地委員

これまで、札幌という枠組みで議論してきたが、さらに先の時代に視点を向けると、道内人口の減少や交通の変化（新幹線の導入）などに伴い、北海道のセンター都市であるという位置付けがより強くなると考えられる。北海道の情報を得るための入り口としての役割も考慮して、蔵書の考え方を整理してはどうか。

●細谷委員

これからの公共施設として、何十年先のニーズにも対応出来るように、フレキシブルな機能配置とすることで、菊地委員の発言にも対応できるのではないか。

●菊地委員

理念として、「北海道のセンター都市である札幌」というニュアンスの言葉をコンセプトに織り込んでどうか。

●細谷委員

「単に札幌市の図書館の整備状況だけではなく、北海道の情報拠点としての将来を見据え」というような考え方。例えば、原発問題のような世論を二分している問題にこそ、客観的に資料を収集し、シンポジウムやセミナーを開催するなどの役割が必要。

●菊地委員

課題解決の論調を方向付けるのは図書館の仕事ではないが、そのための基礎的な資料、データ、あるいはつながっていく仕組みなど、時代ごとの問題に 대응していける機能を北海道のセンター都市として担うということを、コンセプトに含めるかどうか。

●事務局（中央図書館長）

菊地委員の発言は、最終的には、都心にふさわしい図書館で、北海道に関する資料・情報を収集していくということになるのか。

●菊地委員

イメージとしては、情報の入り口、ポータルサイトのような役割と考えている。

●事務局（中央図書館長）

先ほどの原発の話にしても、北海道に関係のある問題は大抵の場合札幌にも関わりが深く、結果的には、今議論されているような考え方も含まれる蔵書構成になると考えられる。

一方で、例えば「稚内の情報も積極的に収集」となると、道立図書館との棲み分け、それぞれの存在意義にも関わる。

●菊地委員

道立図書館のような資料収集という発想ではなく、道立図書館で調べたらいいのか、大学図書館で調べたらいいのか、調査をするための入口、取っ掛けとしての機能を期待している。

●細谷委員

北海道のセンター都市として、情報の入り口、ポータルサイトのような機能を持つということをコンセプトに盛り込んでもいいのではないか。資料を掘り起こして、調査研究をする時は道立図書館を利用するということで、機能の棲み分けもできる。

●河村座長

ここからは、資料の貸出について議論を深めたい。今までの図書館界では、資料の貸出が公共図書館サービスを大きく変えてきたという背景があるが、都心にふさわしい図書館では、あえて貸出をしないというところに面白みがあると思う。そうすることで、書店、作家、出版社との摩擦といったような問題に対しても、逆に相乗効果としてプラスの面も見せていける。それぞれのご意見をお聞きしたい。

●細谷委員

（事務局に質問）現在の、貸出期間2週間の運用を変えることは可能か。

●事務局（調整担当課長）

システム上では可能だが、全市的な運用の面では難しいのではないかと。

●猪熊委員

レンタル店では、新作は通常より貸出期間を短く設定しているため、感覚としては市民にも浸透しているように思う。それが図書館に応用するとなった時に理解が得られるかどうかはわからないが。

●河村座長

都心にふさわしい図書館とは別の話として、新刊本の貸出期間の短縮については、札幌市全体の図書館のシステムとして検討できたら良いとは考えている。

ただし、ここでは、限られたスペースで、厳選した資料を配置するというコンセプト

の中で、貸出をすることで資料が歯抜け状態になってしまうのが良いのかという議論。今までの概念を覆して貸出をしないというのも良いのではないか。

●事務局（調整担当課長）

貸出については、サーキュレーション機能ということで、今運営している大通カウンターの程度の機能は考えている。（他館資料の取り寄せ、貸出、返却）

●河村座長

立地的にサーキュレーション機能は必要だが、それとは別に、この図書館の蔵書は貸出をしないことによって、常に資料が揃った状態で提供できるという考え方が出来る。

蔵書体系について、何を、どの位という案はあるか。

●豊田委員

数万冊のレベルで良いと考えている。ただし、冊数よりも点数が重要で、札幌市の図書館資料全体の点数にプラスされるような貴重な数万冊が必要。

●河村座長

Undergraduate Library なら 5 万冊あれば十分と言われている。厳選して蔵書を構成していくのは図書館員にとっても難しい。この図書館では、特定の分野の資料は常に最新のものを揃え、数か月後には、中央図書館や地区図書館に移管し、貸出利用に供するという考え方で、資料を収集していつかはどうか。そうすることで、書店との共存も可能となる。

●細谷委員

ある程度新刊に力点を置くという考え方は良いが、新刊だけでは書店と変わらないのではないか。

●河村座長

例えば書店で、一番上の本を見本として読み、買う時はその下のきれいなものをというように、内容を見て、買いたければ買う（借りたければ予約する）ということを図書館がするのもいいのではないか。既存図書館、書店への誘導などで他との整合性も取れる。

●豊田委員

レファレンス資料はベースとして所蔵し、セレクトライブラリーはテーマごとに新旧織り交ぜて展示するイメージを持っている。

●河村座長

これまでの議論で、セレクトライブラリーの他に、雑誌をメインにしてはどうかと提案したときに、蔵書も必要との意見があった。では、蔵書は何冊必要かということになり、3 万冊あるいは 5 万冊ということになった時に、誰がどんなふうを選ぶのかということを考えなければならない。そこで、私は、「新刊を収集し、貸出はしない」ということを提案したい。分野は細谷委員の意見のとおり、3～6 類ということで賛成している。

●細谷委員

ここまでの議論から、都心にふさわしい図書館では資料の貸出をしないという方向で同意する。ただし、利用実績を見て再検討するという柔軟性も持たせたい。

●猪熊委員

ビジネスという部分では、最新の資料を揃えるということで良いが、地域資料や多文化という面では、ある程度フィックスされたもの、例えば札幌文庫のようなものがあったり、最新のものと織り交ぜて用意したい。

●河村座長

選書については、熟練した図書館員が判断するしかない。都心にふさわしい図書館では、常に情報や知識が入れ替わり、一定期間が過ぎたものは従来の図書館に戻る。新しい資料、仕事に役立つ資料が都心でずっと見られるという、従来の図書館とは違うイメージにしたい。

●事務局（企画調整担当係長）

大きな方向性として、常に新刊が用意してあるという考え方になると思うが、資料費の問題や実際にどの程度の蔵書数を配置できるかという問題もあり、今の段階では詳細まで決めることは難しい。

●細谷委員

図書館の蔵書のショールームのようなイメージで、新刊を中心に、資料の分野は都心にふさわしい図書館のコンセプトに合わせて3～6類を重点的にという考え方。

●河村座長

蔵書については細谷委員の発言のように考え、貸出については、運用上問題があれば再検討することとしたい。

●細谷委員

今後、図書館協議会や市民に考え方を示す時は「資料の貸出はしない」ということではなく「いつ来館しても資料を閲覧できる」（そのため貸出の貸出しは出来ない）というポジティブな表現とすべき。

●事務局（中央図書館長）

資料については基本的に新しいものを揃えるという考えがあるが、基本的なもの、普遍的な内容のものもベースとして用意し、その上で新しい資料が回転していくということと理解した。

●河村座長

ここまでの議論でおおよその方向性が確認できたと思うが、また議事録等で議論の内容を確認したい。

●細谷委員

今後は図書館協議会に提出する資料は作成されるのか。

●事務局（企画調整担当係長）

協議会に提出する資料以外にも、今後、庁内でのプランを作成する時にも、ご議論いただいた内容を参考にさせていただきたい。詳細な部分は準備段階に応じて検討が必要となるが、今回の懇談会では、スタートとなる大きな括りをまとめたという認識で考えている。

●河村座長

今後、必要に応じて、このメンバーで再度議論がなされることもあるかもしれない。活発なご議論をいただき感謝申し上げたい。

●事務局（調整担当課長）

今回、都心にふさわしい図書館ということで皆様にご議論いただいたが、今後も市民交流複合施設全体としての打ち合わせが続き、同じ建物内には放送局が入るということで、様々な要素が今後も出てくると考えている。

具体的な検討が必要な機会には、またご意見を頂戴したく、今後も引き続きご協力頂きたい。